

平成29年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～長崎県(壱岐市立那賀小学校)～

目的

- ・小学校における英語教育の早期化・教科化に対応できる英語指導力をもった教員の育成を目指す。
- ・「長崎県英語指導力向上期間」で目指す3つの姿(①すべての教員が外国語活動の授業を経験する。②簡単な英語で子どもに指示ができる。③ALTと協力して指導ができる。)の浸透を図る。

本校の現状

- 教職員の実態(意識調査から)
 - ・外国語活動の授業経験はあるが、研修への参加については個人差がある。
 - ・授業の準備への負担感や、自身の英語力への不安感が大きい。
- 児童の実態
 - ・1～4年生・・・月1コマ程度、ALTとのT.T.授業(平成29年度から) 学校独自の指導計画
 - ・5・6年生・・・週1コマの年間35時間授業、JTEとのT.T.授業 Hi, friendsを中心とした学習内容

研究内容

- ◎授業作りについて
 - ①問題解決的な学習過程モデル第4版の活用 ※
 - ②教室英語の充実
 - ③ゴールを明確にした授業構成
 - ④ALTやJTEとの打ち合わせ
- ◎研究を進める土台作りについて
 - ①言語環境の整備
 - ②講師を招聘しての研修会の実施

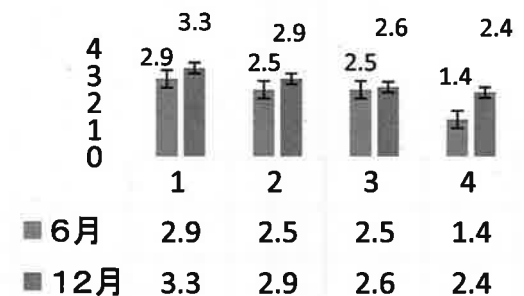
今後の課題・方向性

- ①教職員の英語使用率を向上
 - ・ガイドブックを活用した研修の継続
 - ・教室英語CAN-DOリスト作成 (教師用)
- ②授業改善
 - ・第4版に即した授業モデルの作成
 - ・新教材を活用した授業の在り方
 - ・5・6年生「教科型」の在り方
 - ・評価の在り方
- ③児童の変容
 - ・意識調査の実施

成果

- (意識調査②から)
- ◎外国語活動の授業に対する不安感や抵抗感が減った。
- ◎教室英語を使うことへの抵抗が少なくなった。
- ◎環境が整備され、児童の学習意欲が高まった。
- ◎他の先生方の授業を参観することで、イメージがつかめたり、引き出しが増えたりした。
- ◎手軽に使える教材が増え、準備への負担感が減った。

教職員の意識調査(4段階評価)



1. 授業のイメージがつかめている。
2. 児童に英語で指示ができる。
3. 準備に負担感がない。
4. 自分の英語力に自信がある。